

NPO法人

気象キャスターネットワーク 会報

2015 第13号

空色レポート



特集

- ・気象キャスターネットワークの活動がもり沢山!
 - ・気象キャスターによるお天気のお話
- などなど

気象衛星



特集

気象衛星



ひまわり8号、9号の想像図

Q. ひまわり8号は、どのように機能が向上したのですか？

まず観測の時間間隔が短縮されました。これまでのひまわり7号では、全球1時間、北半球30分に1回の観測でした。今度のひまわり8号では、これが全球10分、日本域は2.5分ごとに短縮されました。分解能も、これまでと比べると2倍に向上し、きめ細かい観測が可能になりました。

また、ひまわり8号は16の観測バンド(波長帯)のセンサーを持っています。(これまででは5バンド。)このバンドを色々と組み合わせることによ

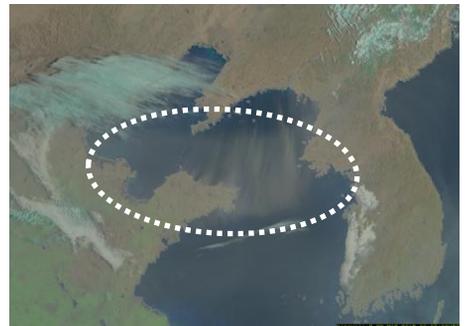
り、カラー画像のほか、観測目的に応じた様々な画像を作ることができます。黄砂が飛来する様子、火山灰が広がっていく様子、海水や積雪もとらえることができるようになりました。5月29日の口永良部島の噴火の際も、噴煙を確認することができました。

このような新機能を備えた静止気象衛星は世界でも初めてです。米国や欧州でも同様の機能を備えた次世代静止気象衛星の打ち上げを計画していますが、ひまわり8号は世界に先駆けて運用を開始したことから国際的にも注目されています。



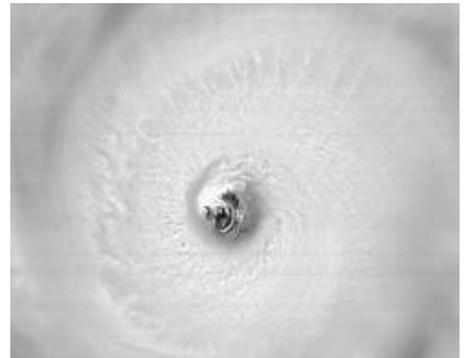
口永良部島の噴火

雲よりも少し茶色く見える火山灰が口永良部島から西側に広がっていることが分かります。(2015年5月29日)



黄砂

様々な波長の観測画像を合成して、黄砂を目立たせて表示することができます。(2015年3月22日)



台風目の目

台風の目の中で雲が渦を巻いている様子を確認することができます。(2015年5月10日)

トピックス 「ひまわり」が正式名称に



これまでのひまわり7号までは、「ひまわり」は愛称で、正式名称は「静止気象衛星(GMS:Geostationary Meteorological Satellite)」(1~5号)、「運輸多目的衛星(MTSAT:Multi-functional Transport Satellite)」(6~7号)でした。しかし8号からは「ひまわり(Himawari)」が正式名称になりました。国際的にも、その名が広く知られることとなります。



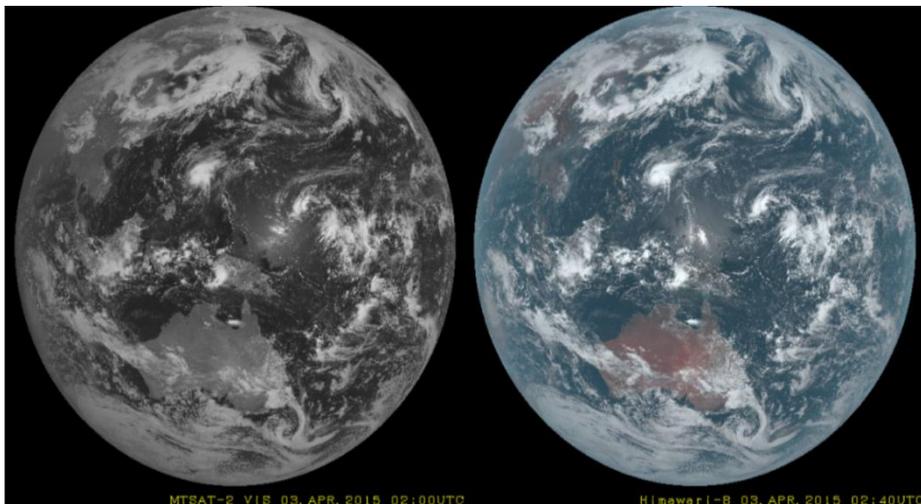
製造・打ち上げ前のひまわり8号
写真提供) 三菱電機株式会社

新旧ひまわりの比較

左:ひまわり7号の可視画像

右:ひまわり8号の可視合成カラー画像

ひまわり7号では可視が1バンドのみのため白黒画像でしたが、ひまわり8号では、赤・緑・青の3バンドを合成してカラー画像を作成することができます。



Q. ひまわり8号は天気予報や防災情報の精度向上にどのような効果がありますか？

気象衛星で雲の動きを観測することで上空の風を推定することができ、天気予報のコンピュータの計算に利用されています。ひまわり8号により観測性能が向上したことで上空の風をきめ細かく推定できるようになり、天気予報の精度が上がるのが期待されます。

ひまわり8号は日本域を2.5分という短い時間間隔で観測するため、急激に発達して集中豪雨をもたらす積乱雲を、より早く検出することができます。また日本域だけでなくある特定地域を2.5分間隔で観測できる機能を備えているため、日本から離れた海上の台風も2.5分おきにきめ細かく監視することができます。他にも、海面の温度や海水の分布、大気中の微粒子などの観測もより高精度に行うことができるため、地球環境の監視など

様々な用途に活用できます。

ただ、ひまわり8号のような精度の高い静止気象衛星のデータが入るのは、我々にとっても初めてのことです。天気予報や防災情報の精度向上につなげるための研究、検証もこれから始まります。最先端の気象衛星を最大限に生かせるような技術開発を進め、気象情報の精度向上につなげていきたいと考えています。

天気図レポート

1978年9月11日

1978年4月6日、日本で最初の気象衛星「ひまわり1号」の運用が開始されました。こちらは最初の画像とその日の天気図です。この日は低気圧が日本列島の南岸を発達しながら通過しました。ひまわり1号の雲画像は、低気圧の発達した雲をしっかりとらえています。



日本初の気象衛星画像

ひまわりの登場は、特に台風の観測に劇的な進歩をもたらしました。これまで日本列島から離れた海上の台風の観測は、船舶からの報告や米軍航空機の観測など限られたデータから推測するしかありませんでした。気象衛星の観測によって、台風がどこにあっても24時間その動きを常に監視することができるようになったのです。

[水越]



その日の天気図

講師を派遣します

気象キャスターや気象予報士が、天気や防災、環境について講演や講座、イベントなどを全国各地で開催しています。気象キャスターによる講演のほか、親子で楽しく学べるイベントなども多数実施しております。詳しくは当会HPよりお問い合わせください。

TOP→講演・イベント→お問い合わせ
http://www.weathercaster.jp/web/kouen_event/index.html

講演例

- ・地球温暖化の影響と災害への備え
 - ・気象キャスターがみた地球温暖化と異常気象
 - ・生活に生かす天気予報
- など



キャスターレポート

きくち まい
菊池 真以 さん
NHK東京 気象キャスター
気象予報士



『雲が、宝石みたいに綺麗…。』気がついたら声に出して、自分で驚きました。宝石みたい、なんて言葉を、大人が恥ずかしげもなく口に出していました。富士山の中腹で見たこの空に、とんでもなく感動したのが3年ほど前になります。それまでは、多分、私はちゃんと空を見ていなかったのでしょうか。今はコンピュータでも予報ができる時代です。室内でパソコンとにらめっこをしているだけで、予報が出来上がってしまうこともあります。私も眉間にしわを寄せて、じっと画面を見ているだけだったのだと思います。空を観察し始めると、不思議ですね、色々なものが見え始めます。雲が光に彩られる「彩雲」や太陽の周りに光のリングができる「日暈(ハコ)」によく出会うようになり、雲の形や様子を見て、秋が来たなあ、だとか、冬も終わるなあなどと、季節の変化に早く気がつくようになりました。夕焼けのあと、空が深い青に輝く時間「ブルーモーメント」に魅せられて、眺めの良い場所へ毎日通ったこともありました。そして、こういった瞬間を誰かと共有をしたくて、たくさんの写真を撮るようになりました。空を見上げるきっかけをくれたあの日の空に感謝をしています。



また、大阪でキャスターをしていたとき、どんなに予報が安定している日も、オンエア前に時間がなくても、空を見に行く先輩がいました。先輩の天気予報は分かりやすく、憧れていたのを覚えています。私も真似をして、それまで以上にオンエア前の空を見るようになりました。そのころ、私は早朝の勤務だったので、真っ暗で何も見えない空に(特に冬は、なかなか夜が明けず…)不安を覚えたりもしました。でも、よく見ると、星や街明かりの瞬きで風の強さを感じたり、月明かりで雲の厚さが見えたりするんですね。その先輩に出会って、予報士として少しは成長できたのかなと感じています。今年度4月からは土、日、祝日のNHK「ニュース」の気象情報を担当しています。放送局にいる先輩方は、雲画像だけでも、あっという間に様々な解説を組み立てます。日々勉強し、まだまだ色々な空に出会いたいです。



気象キャスター派遣

気象キャスターネットワークでは、気象キャスターを目指す人を応援しています。天気原稿の書き方やカメラに向かってのプレゼンテーション訓練などの講座を開催するとともに、全国各地のテレビ局に気象キャスター派遣しています。詳しくは事務局までお問い合わせください。



気象キャスター デビューレポート



NHK水戸
むかき こうじろう
向笠 康二郎
キャスター



キャスターになって3カ月。カメラの前に立つことに抵抗は減りましたが、しゃべれば噛んでばかりの毎日です。番組の構成上、全国の天気から茨城ローカルに切り替わってお伝えするのが主な流れですが、見てくださる茨城の方々に、「全国版よりローカルの方が役に立つ」と思ってもえるよう、頑張ります。

北海道文化放送
よしい ようじ
吉井 庸二
キャスター



北海道の気象キャスターとして、勉強の毎日です。特に、気温の感覚が本州と異なるので、体感を伝える時は慎重になります。こちらに来て1年がたち、全ての季節を経験できたので、より一層、北海道の人たちと同じ感覚で天気を伝えられるように努力していきたいと思っています。

お天気

質問レポート



ひょうといえば、去年6月に東京の三鷹市や調布市で大量のひょうが住宅街に降り積もった光景を思い出す方も多いかもしれません。ひょうは発達した積乱雲から降る氷の粒です。日本で降る雨の多くは「冷たい雨」と呼ばれ、雲の中の氷の粒や雪の結晶が落下しながら大きくなり、0℃より暖かい所まで落ちると融けて雨となりますが、融け切らずに氷のまま地上に降ったものがひょうです。大きさにより直径5ミリ以上をひょう、5ミリ未満をあられと呼んでいます。氷のまま地上に届くには氷の粒が大きくなる必要がありますが、それを手助けするのが発達した積乱雲の中にある強い上昇気流です。地表近くまで落ちて融け始めた氷の粒が上昇気流により上空高く持ち上げられて再び凍り、大きな

ひょうは

どのようにして降るの？



りながら落下、下層で融けかけたところで上昇気流により再び上層へ…と上昇・下降を繰り返し氷の粒はどんどん大きくなります。そしてある程度の大きさになると上昇気流で支えきれなくなり地上へ落ちてきます。融けたり凍ったりを繰り返すため、ひょうを輪切りにすると樹木の年輪のような層構造を見ることができます。通常は直径5～10ミリ程度ですが、時にゴルフボール以上の大きさとなり農作物や建物へ被害が出ることもあります。



ひょうは上空に冷たい空気が入るなど大気の状態が不安定となり積乱雲が発達する際に起こりますが、季節的には初夏や秋に多くみられます。真夏だと地表や上空の気温が高めで氷の状態でいられにくく、冬は他の季節より積乱雲が発達しにくいからだといわれています。



岩永 哲さん
(広島県・正会員)



食レポート



おととし春から名古屋で夕方ラジオ番組のキャスターを担当、3度目となる“名古屋の暑い夏”を迎えようとしています。そんな中、先日リスナーから届いたメッセージにまか不思議な食べ物の名前が。「暑い時こそ、からし豆腐です！」…豆腐にからし？辛いとよけい汗が出



暑い時こそ・・・

るのでは？と思いつつ、さっそく近所のスーパーで購入してみました(普通に売ってるのです)。アンマンのような半球状、切ると真ん中に辛子たっぷり。口を含むと思いのほか辛い!!けれども、辛さに耐えて噛むうちに豆腐の甘味がなじんできて…これはクセになりそう。ちなみに冷え冷えにして食べると固めの豆腐が口の中をヒンヤリさせてくれます、だから「暑い時こそ」なんですね。東海地方に来たらぜひお試しを！

石垣 真帆さん
(愛知県・正会員)



フォトレポート



奄美大島の夕焼けです。この日は、梅雨真っ只中…。でも、雨の後にはこんなご褒美が待っていました！

植木 奈緒子さん
(鹿児島県・正会員)

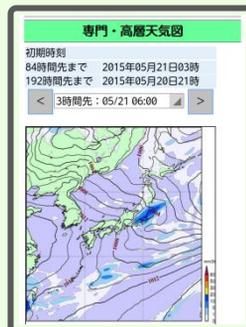


(広告)



山の天気予報

安全な登山は、信頼できる山の予報から。山の天気は、山岳気象のプロにおまかせ！山岳気象に精通した気象予報士が、全国18山域、59の山頂の天気を毎日予想。大荒れ情報や気象レーダー、高層天気図も掲載しています(有料)。



まずはこちらへアクセス



検索 ヤマテン

株式会社 ヤマテン



気象キャスターネットワークでは、台東区教育委員会が主催する「台東区学びのキャンパスプランニング」に参加しています。台東区内の様々な分野の民間団体が、小学校や中学校、幼稚園や保育園などで、子どもたちに教えるという活動です。私たちもその中で、小学校向けの防災出前授業を行っています。身近な天気に関心を持ってもらうとともに、気象災害から身を守るために、どのような行動をとれば良いのかを考える授業です。



授業の前半は、雲や空などの身近な天気や近年起きた気象現象の話題、大雨や雷、竜巻などの突風から身を守る方法などを、実験などを交えて話します。また、台風情報や警報と注意報、自治体から発表される避難情報など、日々の天気予報や気象報道で伝えられている情報の見方なども、授業の中で取り入れています。

後半は、気象災害をイメージするワークショップ(グループワーク)を行います。私たちの町に台風が来た時にどのような行動を取ればよいのかを、住んでいる場所や家族構成などグループごとに決めて、話し合います。台東区は低い土地が多く、隅田川などの河川も抱えていて日ごろから大雨に対する意識が強い地域です。子どもたちは、様々な状況を想定してグループごとに意見を出し合っていました。

近年、気象災害が頻発し、防災に対する意識の向上が求められています。周りの空の様子に注意し、子どもたちが自ら「考える、気づく、行動する」ということが出来るようになることが大切です。また、気象は地域によって特性があり、山間部では土砂災害、市街地では地下やアンダーパスの浸水など、特に注意しなければならないことが異なってきます。現在は台東区を中心として小学校での防災出前授業を行っていますが、今後は各地に活動の輪を広げて、気象災害から身を守るための地域に根差した授業を実施していけたらと思います。 [渡部]



ワークショップ「気象災害イメージゲーム」の道具

気象キャスターネットワークでは、さまざまな出前授業を行っています！



防災授業の他にも、気象環境などをテーマとしたさまざまな出前授業を行っています。授業応募の告知は当会HPに掲載していますので、是非ご覧下さいませ。

※協賛企業・団体募集のご案内※

子どもたちへの防災や気象の授業・被災地支援活動を進めております。防災の出前授業では、竜巻や豪雨、台風への備え、地震・津波の仕組みなど、実験やワークショップをしながらわかりやすく授業を行います。空(天気)と大地(地震)に関心を持ち、身を守る行動につなげられるよう、ご協賛、ご協力を何卒よろしくお願い致します。



私たちがキャスターが全国の学校を訪問します！



ながしま 純子さん
【関東地区】

出前授業で全国のたくさんの子供たちに出会いました。子供たちは今の地球の状態を知ると驚きを露わにし、これ以上地球温暖化を促進させないよう、防止策を色々提案してくれます。次はみんなの学校へ行きます。私たちと一緒に地球温暖化を防ぐ方法を考えましょう。



鈴木 ひでみ
【関東地区】

講師デビューが8年前なので、当時の6年生はなんと来年成人式！目を輝かせながら授業を聞いていた彼らは、どんな大人になっているのでしょうか。頭の片隅にでも当時のことを覚えてくれるかな？近い将来、そんな彼らが地球防衛隊として活躍する事を夢見て、これからも伝え続けていきたいと思っています。



おおすみ ともこ
【中国地区】

最近、これまでに経験したことがない大雨が増えています。多発する気象災害やその原因の一つと言われる地球温暖化について分かりやすく、楽しくお伝えします！熱心な子供達の姿にいつも心を打たれています。美しい地球を守るため、一緒に一歩踏み出しましょう！

2月21日(土)に東京で気象キャスターネットワークの定期総会が行われました。全国の気象キャスターや気象予報士、当会の活動に賛同して下さっている会員の皆さまが集まる、年に一度の大きな集まりです。定期総会では今年度の事業報告や来年度の事業計画などを報告・議論し、承認されました。



総会終了後には、特別公演として気象庁観測部の島津様、空の探検家の武田康男様、防災科学技術研究所の納口様より新しくなる気象衛星や貴重な雲のお話、そして防災教育についてご講演いただきました。興味深い話が多く、大変盛り上がる講演となりました。

その後は、毎年恒例の懇親会です。この1年間のさまざまなイベント活動を報告しながら、活躍して参加して下さった方々の表彰を行いました。地域活動賞には広島と名古屋の皆さま、東北での活動に参加して下さった方々、キャスター講座の講師をして下さった方々、気象

キャスターとして夢をかなえた方など、気象キャスターネットワークはたくさんの皆さまに支えられて活動していることを改めて実感しました。

今年度もさらに活動の幅を広げていけるよう、事務局スタッフも精進してまいります。 [名倉]



4月18日 広島県土砂災害現地視察

4月18日、広島に行ってきました。2014年8月に起きた豪雨災害の現場の視察です。気象キャスターネットワークの研修として、広島で活躍されている会員の波田健一さんが企画、中国地方整備局のみなさんにご協力いただいたの実現でした。

まず向かったのは、安佐南区の緑井地区。遠目でも、押し寄せた土砂の威力がいかに凄まじかったのかがわかります。実際に歩いて現場を見ながら、事務所のみなさんが、くわしく説明してくださいました。



百聞は一見にしかず。大雨の被害のあった現場を訪れたのは初めてでしたが、自分の目で見たことによって、被害の実態をリアルに理解し、被害を防ぐために、身を守るために、何が必要なのか

を「我がこと」として考えることができました。

気象予報士として、防災士として、いざという時に、視聴者にきちんと情報を伝えながら、リアルに捉えてもらう工夫をすること、そして何よりも、普段から「我がこと」として考えてもらう呼びかけをあきらめずに続けることが大切だと思いました。貴重な機会を頂けたことに感謝しています。

[石垣]



6月27日 エコ・クッキング講習会

6月27日(土)に東京ガス主催の「エコ・クッキング講習会」に参加しました。「エコ・クッキング」とは、地球環境を思いやりながら「買い物」「調理」「片付け」をすることです。

希望者は全員女性で、とても華やかな中始まりました。

まずは座学の講義からスタート。環境問題とエコ・クッキングの章では地球温暖化とエネルギーについて学びました。地球温暖化については、普段出前授業で伝えていることですが、なかなか子供たちがすぐに取りかかれそうなアク

ションに繋げていくのが難しいと感じていたため、料理と結びつけて考えることに目から鱗が落ちる思いでした。

休憩を挟んで、午後からは調理実習です。それぞれ班に分かれ、石焼風ピンパ、わかめスープ、きゅうりのナムル、黒ごまあんスティックの四品を調理しました。知り合いがほとんどだったのでどちらの班も和気あいあいとした雰囲気です。調理実習が進められ、ほぼ同時に全ての班が時間内に調理を終えることができました。最後には確認テストを行い、無事にエコ・クッキングインストラクターの資

格証明書を授与されました。

講習は受けるだけでなく、その後も実践し続けることが重要です。これから私もエコ・クッキングを実践していこうと思いました。 [名倉]



熱中症予防情報ページ開設中！

暑さ指数(WBGT)を表示するページを開設しております。WBGTは、気温だけでなく湿度などを加味した体感温度を表現する指数で、熱中症の危険度がわかります。パソコン向けページでは好きな地点を検索表示することが可能で、またスマートフォン向けページではGPS機能で現在の暑さ指数を手軽に表示できる形となっています。情報は毎日更新されます。学校現場など、この夏の熱中症対策にぜひご利用ください。

詳しくは当会HPへ！
またはスマホ・携帯で今すぐアクセス→

http://www.weathercaster.jp/heat_stroke/



↑パソコン版ページ
↓スマホ版ページ



『異常気象と気候変動についてわかっていないこと』

[ベレ出版]



編 筆保 弘徳

編著 川瀬 宏明 (一般会員)

知ってるようで意外と知らない異常気象と気候変動。少し深く踏み込んでみませんか？各章末の研究者コラムもオススメです！
[川瀬]

お知らせ



気象キャスターネットワークとは…

◆私たちの目的◆

私たち気象キャスター・気象予報士は、環境破壊や気象災害から人命・財産を守るため、多くの人々と一体となって環境問題の解決と気象災害の軽減に関する啓発・教育活動を実践します。

◆私たちの環境教育活動◆

気象・防災・環境の知識とコミュニケーション能力を兼ね備えた気象キャスターを、理想的な『地球環境教育と防災のメッセンジャー』と位置づけ、これからの地球を支える子供達への教育を通して社会に貢献しています。

◆気象・防災知識の普及活動◆

- ・講演会やイベントへの講師派遣
- ・自然体験講座の開催
- ・気象予報士の育成
- 気象キャスター向け講座の実施

『12ヶ月のお天気図鑑』

[河出書房新社]



著者 武田康男 (正会員)

菊池真以 (正会員)

日々変化する空を、カメラで記録してきました。12ヶ月、季節の言葉を添えて紹介しています。季節を巡る旅へ、ぜひ。
[菊池]

8月1日は水の日です。平成26年に施行された水循環基本法において国民の間に広く健全な水循環の重要性についての理解や関心を深める日として法定化されました。

気象キャスターネットワークでも水の日、水の週間の子供向けイベントにてワークショップを行います。ぜひご参加ください。

「お天気キャスターと一緒に考えよう！親子で学ぶ防災教室～雲と雨の不思議～」

日時：8月14日(金)10:30～11:30 場所：東京国際フォーラム

編集後記

気がつけばもう8月。2015年がもう半分以上過ぎました。過ぎ行く日々の中で、地球環境教育と防災のメッセンジャーとしてできることを会員の皆さま、そして支援して下さる方々とともにやっていきたいと思っております。
[名倉]

会報『空色レポート』

バックナンバーもHPにて公開中！

WCN会報

検索

ぜひ、みてね☆



編集・発行

NPO法人

気象キャスターネットワーク

〒110-0002

東京都台東区上野桜木1-14-21

高遠レジデンス上野桜木202号室

TEL : 03-5832-9401

FAX : 03-5832-9402

発行日:2015年8月1日(第13号)

表紙写真:武田康男さん